

「学ぶ会」の発足

2017年9月頃、「クローズアップ現代」「朝日新聞」「東京新聞」などで話題になった本書を手にとって、私たちは、そのユニークさに感動した。

まず、目次のタイトル。「政治が売り切れた—江戸幕府の滅亡—」とある。売り切れたという表現が面白い。また、「昔一揆、今、演説会—自由民権運動—」とあって、心底から納得、興味をそそられる。見開き2ページごとのテーマも読みやすい。本文に太字がないのは重要

性判断の先入観を防ぐ狙いか？ また、珍しい写真、絵、資料、地図、注意書などが豊富に載っていて、多彩に歴史が語られている。

支部会員の中から、「明治維新（黒船来航）以降を、有志で読み合わせ学習をしよう」と提案があり、10余名が手を挙げ、2018年3月「近現代史を学ぶ会」発足となった。さらに、第1回目の直前に、Aさんが知り合いの元高校教員の方にお声をかけたところ、毎回助言者としてお越しいただけることになった。

市民の中から「歴史の学び直し」が始まった！

本書を手にとって、そのユニークさに感動した

楽しく学びあう歴史サークル

●全日本年金者組合調布支部・近現代史を学ぶ会（東京都）

菊池 公子 蔵野 武

進め方 — 読む・考える・話し合う —

見開き2ページごとに、全員で隅から隅まで輪読した後、感想・疑問などを出し合い、理解を深めてゆく。助言者が、出された感想・疑問・質問を有機的に連鎖させながら、問いかけを交えて解説する。毎回用意される補足のプリントも役立つ。

例会を重ねるうちに、読み合わせの際、図表・写真・絵資料などについても、想像力を膨らませて、思いついたことを付け加えるようになった。後からの読み解きが一

層頭に入りやすくなった。

例えば、第8章(1)「日本と清が、朝鮮で一日清戦争—」では、日本軍は広島から朝鮮に侵攻後、遼東半島さらに山東半島を攻め、下関条約締結に至った。地図をよく観ると、その後、台湾に出兵しているではないか。なぜ？これは、台湾の人々の強い抵抗を鎮圧すべく、大軍を派遣したためだった。日本兵の戦病死者は朝鮮より台湾の方が圧倒的に多い(4倍)ことに驚いた。これまでの日清戦争観が覆った思いだ。

自主発表への意欲

歌好きのBさんから、第8章(4)「国語をつくる」に記載された「鉄道唱歌」の音階の話为契机に、自主研究的な発表があった。ファとシがない音階を「四・七抜き音階」といい、明治政府の役人がアメリカ留学中に、日本人の耳に合うことを発見したそうだ。たとえば、「蛍の光」(スコットランド民謡の旋律)、「赤とんぼ」などが

よく知られている。自主発表は、変化と刺激があって楽しかった。

その後、「満州事変のところでは、満蒙開拓青少年義勇軍と内原訓練所の話をしたい」や、「終戦前後の集団疎開、海外からの引き揚げ、を発表したい」「最近の日韓問題を掘り下げてみたい」等の発言があった。この会の学習意欲と発展に繋がるだろう。

広がり深まる歴史への関心

次第に参加者も増え、感想や意見交換も活発になってきた。学習中には10分ほどのティータイム、終了後は、有志での講師とのランチもある。これも人気だ。気楽に自由に語り合う中で、歴史への好奇心が刺激され、学

習意欲の向上や人間関係の醸成にもつながっていく。時には、自らある出来事のある場面に入り込むことによって、時代の内側が見えてくることもある。歴史の面白さ、歴史の主体たる人間の自覚が一段と増すことになりそうだ。